

日中韓水担当閣僚級会議

水管理分野の三カ国協力に関する共同発表

中華人民共和国、日本国、及び大韓民国の水担当閣僚は、第5回世界水フォーラムの機会を利用して、水管理分野における三カ国協力を進める重要性について合意した。

これまで北東アジア三カ国は、水資源、河川、及びダム管理分野において、毎年二国間会議を開催することにより、お互いの経験と技術情報を交換すると共に、水に関するプロジェクト現場を訪問し、協力活動を促進してきた。

しかし、気候変化、急速な都市化、人口変化、経済危機の進展により、参加国は洪水、旱魃、台風、海面上昇といった悪化する水関係リスクに直面している。そのため、水問題により調和したやり方で対応するため、既存の協力体制をさらに強化することが必要となった。

これらのリスクは地域的であると共に世界的なものでもあるため、三カ国の水担当閣僚は、情報共有や共同活動の新たな場（プラットフォーム）を設ける必要性があるとの認識で一致した。さらに、三カ国が技術や経験を共有することにより、洪水や干ばつ、といった各国共通のリスクに対する最適な対策と、気候変動への適応戦略を策定することが可能となる。

そのため、三カ国の水担当閣僚は、各国に共通する水問題の解決を強力に進め、三カ国の連携を更に強化することが不可欠であるとの見解で一致した。

以上を踏まえ、三カ国の水資源担当閣僚は、「気候変化に適応した総合的河川・水資源管理」を基本テーマとする三カ国共同研究を開始するために覚書を締結し、条件が整った時点で三カ国の閣僚会議を開催することを検討することで合意した。

2009年3月20日、イスタンブールにて。

チェン・レイ 中華人民共和国水利部長

金子恭之 日本国国土交通副大臣

クワン・ド・ヨップ 大韓民国国土海洋副部長